



# 思春期の子どもと保護者に寄り添う 教師のためのソーシャルスキル研修講座

茨城県教育研修センター 教育相談課 ☎0296-78-3219

11/14（木）に「思春期の子どもと保護者に寄り添う教師のためのソーシャルスキル研修講座」が開催されました。

ねらい：思春期の特徴を理解し、児童生徒や保護者と信頼関係を築きながら、さまざまな問題に対応するためのソーシャルスキルの向上を図る。

参加人数：国公立の先生方 93人（その他、公開講義参加者27人）

◆9:30～11:30 講義 「思春期の子どもと向き合う」  
講師 茨城大学教職大学院教授 三輪 壽二 先生

## <要旨>

- ・思春期は、大人から与えられてきた価値観を捨て、自分の価値観を作り始める、青年期の入口部分である。
- ・子どもたちには、依存的な行動と自立的な行動の両方が現れるため、安心して戻ってこられる場所や人が必要である。
- ・第2次性徴が現れ、自意識が高まることによる感情の揺れやストレスへの対処について、教員がきちんと理解し、適切な対応をしていくことが求められる。
- ・自殺企図や希死念慮への対応には、傾聴の姿勢や、精神科医との連携が必要である。



## <受講者の声>

- ・具体的でかつ、現場の生徒たちの状況をよくご存じて、納得する点が多々あった。
- ・青年期における精神的自立の基準はとても参考になった。思春期の定式も興味深かった。とにかく分かりやすく、面白かった。

◆12:30～16:00 講義・演習「子どもと保護者に寄り添うソーシャルスキル」

## <内容>

講義：思春期という成長段階及びその特徴、思春期の子どもをもつ保護者の理解とその対応の在り方、子どもや保護者の自尊感情を高めるために活用できる解決志向アプローチの考え方 など

演習：「リソース探し」、「成功の責任追及」、「保護者面接の7ステップ」、「スケーリング・クエストション」など、解決志向アプローチの考え方の活用方法に関する理解を深めるための活動（ロールプレイなど）

## <受講者の声>

- ・解決志向アプローチの考え方について、とても勉強になった。生徒の悩みのベクトルを変える、大きな力になると思う。
- ・自分のリソースに気付けたことと、それを肯定してもらえたことが心地良い体験となった。
- ・引き出しが増えた気がする。ロールプレイはドキドキした。今後も学校で研修をしていきたい。

